

科目ナンバリング		U-LAS41 10001 PJ49							
授業科目名 <英訳>	スポーツ実習 I A [フィットネス] Sports I A [Fitness]			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 梅田 陽子				
群	健康・スポーツ科目群		分野(分類)	スポーツ実習		使用言語	日本語		
旧群	D群	単位数	1単位	週コマ数	1コマ	授業形態	実習(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	木2		配当学年	全回生	対象学生	全学向
<b>[授業の概要・目的]</b>									
<b>【目的】</b> 運動不足は、学生生活で座位行動が極めて長時間であることから生じる可能性が高い。WHOが全世界に発信した、身体活動ガイドラインや、2024年度からスタートするわが国の新たな健康づくり政策のいずれもが「脱、座りっぱなし」である。座位行動を、立ち上がる、歩く、スポーツやエクササイズをするなどの身体活動に置換えることは、心身の健康づくりに効果的である。あわせて、メンタルヘルスにも焦点を当て、マインドフルネスを取り入れたムーブメントを行い、ストレス軽減や対処力の向上を行う。この科目では、学生生活を充実して送るために、生活に積極的に身体活動を取り入れ、「主体的な心身の健康づくり」の獲得を目的とする。合わせて学生同士のコミュニケーション向上の場としたい。									
<b>【概略】</b> 体育館にて、有酸素運動、筋力トレーニング、ストレッチング、ヨガ、マインドフルネスムーブメント、リラクゼーションなどのエクササイズを行う。 新緑の時期に屋外ウォーキングを1～2回予定している。									
<b>【テーマ】</b> 心身の健康づくり：身体活動量の保持は生涯の健康の維持増進に重要であると共に、生体リズムの調整や自律神経の調整など心身の健康づくりに効果的である。主体的にエクササイズを実践することで、健康的な学生生活を営み、心身の健康づくりの基礎を構築する。									
<b>[到達目標]</b>									
1) 運動実践を通じた基礎体力の向上と健康の保持増進 2) 身体活動の量や強度による科学的原理の理解 3) 身体動作による筋弛緩に気づき、心身の緊張や疲労を客観視する。 4) 心身のつながり「心身一如」をエクササイズ実践から学び自己信頼性と社会的交流性を啓培し社会的自立性を養う									
<b>[授業計画と内容]</b>									
下記の内容を受講者の体力や技術に合わせて段階的に実施する。 体育館サブフロアにて屋内中心で行う。 気候がよい時期は1～2回(予定)屋外でウォーキングも実施する。  フィードバックを含む全15回で以下の授業を行う。									
<b>【プログラム内容】</b> (1) ガイダンス (2)～(14)以下の から を受講者の特性に合わせて実施する。									
----- スポーツ実習 I A [フィットネス](2)へ続く									

スポーツ実習ⅠA [フィットネス] (2)

有酸素運動

屋内

- ・一定リズムの音楽に合わせたウォーキングやステップなどの低強度から、ジョギングやジャンプなどの高強度のエアロビクスダンス。
- ・ステップ台を利用した、リズムに合わせた踏み台昇降エクササイズ。
- ・エアロバイク(現在マシンジムに2台常備)

屋外

3～4kmのウォーキング。近隣の寺社を巡る。

筋力トレーニング

- ・自重(自分の体重)を利用した自宅でもできる筋トレ。
- ・マシントレーニング(最新のマシン設備で全身の筋トレ)
- ・ダンベルやチューブによる器具を使った筋トレ

マインドフルネス

ストレッチ・ヨガ・リラクゼーション・マインドフルネスエクササイズ

【フィードバック】

授業の中で得た知識が、どの程度定着しているか振り返る機会を、試験終了後にフィードバック期間として設ける。予め指定した日時に、体育館講師室もしくは指定した教室にて希望者に実施する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績評価は出席状況および授業に対する積極的な姿勢等を総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【授業外学修(予習・復習)等】

授業後は、学習した内容を日常生活で復習し修得するよう努める。

【その他(オフィスアワー等)】

体育館用シューズが必要。

スポーツ実習の授業の受講にあたっては、保険への加入が必要である。原則として、日本人学生は「学生教育研究災害傷害保険」(学研災)及び「学研災付帯賠償責任保険」(学研賠)等の傷害保険への加入、留学生は「学生賠償責任保険」(学賠)への加入が必要である。

【主要授業科目(学部・学科名)】